

臨床研究についての説明書

当院では診療の質向上のため、患者様の診療データを用いた研究を行なっております。

【研究課題】審査番号 098 号

回復期リハビリテーション病棟における運動器疾患患者の歩行獲得の可否に対する骨格筋指数の影響

【研究責任者】新上三川病院 部門・職種・氏名：リハビリテーション科・理学療法士・野澤 季樹

【研究期間】倫理委員会承認日～2026年3月31日

【研究対象となる方】当院に骨折外傷により回復期リハビリテーション病棟に入院された方

【研究意義、目的】

この研究は、回復期リハビリテーション病棟に入院中の骨折患者を対象に、筋力や筋肉量が歩行の回復にどのように影響するかを調べるもので。骨折後、筋力や筋肉量が減少していると、歩行を回復するのが難しくなることがあります。この研究を通じて、歩行回復に役立つリハビリ方法を見つけることを目的としています。高齢者の骨折後は、筋肉の低下が歩行の回復に影響を与えることが分かっています。しかし、回復期リハビリテーション病棟での実際の患者さんを対象にした筋肉量と歩行回復の関係についての研究は少ないです。この研究では、筋力や筋肉量がどのように歩行回復に影響するのかを調べることで、リハビリ方法を改善するための知見を得ることを目指しています。具体的には、患者さんの筋肉量(SMI)や握力、下腿周径を測定し、歩行の自立度をFIMスコアで評価します。また、歩行能力を10m歩行テストで確認し、歩行回復に必要な日数や入院期間などを比較します。この研究を通じて、筋肉量が歩行回復に与える影響を明らかにし、より効果的なリハビリを提供できるようにしたいと考えています。

【研究方法】

診療録より以下の項目の比較検討を行っていきます。評価項目として、筋に関する評価で、筋肉量(SMI)、握力、下腿周径の項目を使用し、また10m歩行時間、機能的自立度評価として、FIMのデータを使用します。FIMの歩行点数により2群に分け、自立・見守り歩行獲得群(FIM5点以上)と自立歩行困難群(FIM4点以下)の2群間で、病前ADL、SMI、歩行の獲得までに要した日数、在院日数の比較を行っていきます。

【個人情報の保護】

この研究により収集される診療データ等は、外部漏洩防止のため、慎重に取扱う必要があります。診療データ等は個人識別が出来ないよう、氏名・生年月日等を削除し、代わりに研究用の符号を付ける処理を行います。収集データは本研究担当者が集約・データ化を行い、データに関しては、パスワード設定を行い保管いたします。ただし、必要に応じ、符号を元の氏名等に戻す処理を行い、結果をお知らせすることも出来ます。研究結果は、個人が特定できない形式で学会や論文等で報告いたします。研究終了後、収集したデータは厳重な管理のもと、当該論文等の発表後10年間保管いたします。

【研究対象への拒否】

研究対象になることを拒否される場合は、2026年3月31日までに下記連絡先へご連絡ください。ご連絡がない場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。なお、本研究を拒否された場合でも、不利益は生じません。

【資金源】本研究において資金は発生いたしません。また、研究対象者に係る金銭負担、謝金はございません。

【利益相反】本研究に関して、開示すべき利益相反関係はありません。

<お問い合わせ先（研究責任者）>

新上三川病院 / 住所：栃木県河内郡上三川町上三川 2360 番地 / 電話：0285-56-7111

所属：リハビリテーション科 / 氏名：野澤 季樹 / E-mail：reha@kaminokawa-hp.jp